

稲作情報

No10 「穂肥対応～飽水管理」

JAえちご中越 さんとう営農センター

発行：令和7年 7月18日



過去に例のない高温によりコシヒカリの葉色が急激に低下!!

葉色を再確認→コシヒカリ2回目穂肥を「確実に施肥」しましょう!!

コシヒカリの生育状況 (7月17日調査：地区別平均値)

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
寺泊	5/7	91.0	431	12.4	32.8
和島	5/8	79.2	406	11.8	31.1
出雲崎	5/5	96.1	405	12.8	30.9
与板	5/11	83.2	359	11.9	28.9
三島	5/5	81.5	403	12.4	29.9
越路	5/12	77.9	407	12.3	32.4
平均	5/8	84.4	404	12.2	31.2
7/20指標値	5/10	79.0	410	12.0	34.0

葉色が30を下回る場合は散見されています!!

梅雨入り後の6月中旬頃より、平年に比べて2～4℃ほど高い気温・多照で生育した経過から、草丈が伸長し、葉色が急激に低下しているほ場が多く見受けられます。

【管内平均値と指標値の比較】

- ・草丈：指標値比 107% 「やや長い」
- ・葉数：指標差 + 0.0 「並み」
- ・葉色：指標差 - 2.8 「薄い」

1回目の穂肥を控えたほ場や一発元肥施肥量の少ないほ場では、葉色が急激に低下し、登熟期間の栄養凋落による品質低下が懸念されます!!

これまでの高温多照による葉色低下に加え、新潟地方気象台の予報では、向こう1か月の気温は高く推移する見込みです。これにより更なる葉色と品質の低下が懸念されますので、高温に耐えられる稲姿を維持するため、県認証基準の範囲内（トータル化学窒素成分3.5kg以内）での穂肥の施用をお願いします!

また、一部出穂していても葉色が薄い場合は3回目の穂肥を検討しましょう!

1. 後期栄養確保対策

【要チェック】裏面に技術情報を掲載しています!

(1) 2回目（出穂前10日頃）の穂肥対応：【分施肥体系】

コシヒカリの2回目（出穂前10日）の穂肥時期を迎えています。栄養不足による品質低下防止のため、出穂10日前の穂肥を確実に施用して下さい。（窒素成分：1～1.5kg程度/10a）

- *1：出穂前10日以降の施肥は稈長の伸長＝倒伏に影響しませんのでしっかり・確実に施肥します。
- *2：1回目穂肥が出穂前18日より遅れた場合、1回目穂肥の7日後を目安に2回目を施用します。

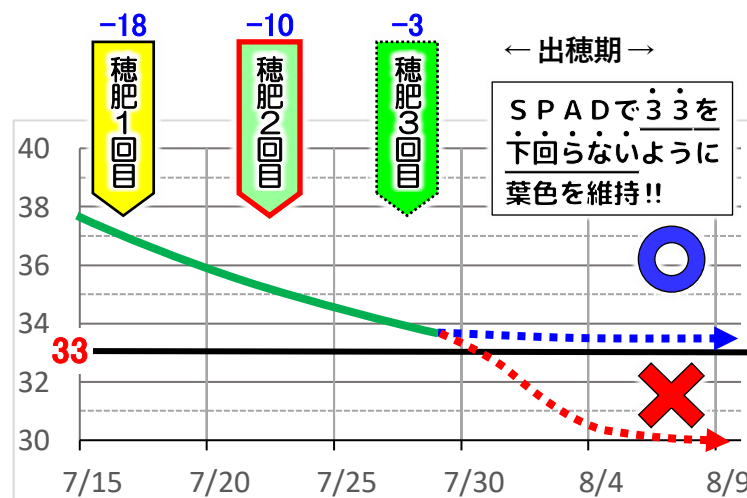
(2) 出穂前10日以降の穂肥対応：【全量元肥体系・分施肥体系 共通】※注）特裁米の施肥量基準

出穂期までに葉色が極端に淡くなる（コシヒカリの場合：SPAD33以下になる）場合には、「出穂の3日前まで」に、生育にあわせて追加穂肥（N成分1kg/10a程度）を施用して下さい。

*コシヒカリの節間はいつのびるの? (出穂前日数)

節位	伸長開始	ピーク	終了
第5節	-29	-26	-20
第4節	-23	-18	-13
第3節	-16	-10	-4
第2節	-6	-1	+3
第1節	-1	+1	+3

倒伏に影響する下位節間（第5節・4節）の伸長は、出穂13日前には終了しています。→ 出穂前10日以降の施肥は、倒伏に影響しないので、しっかり施肥してネ!!

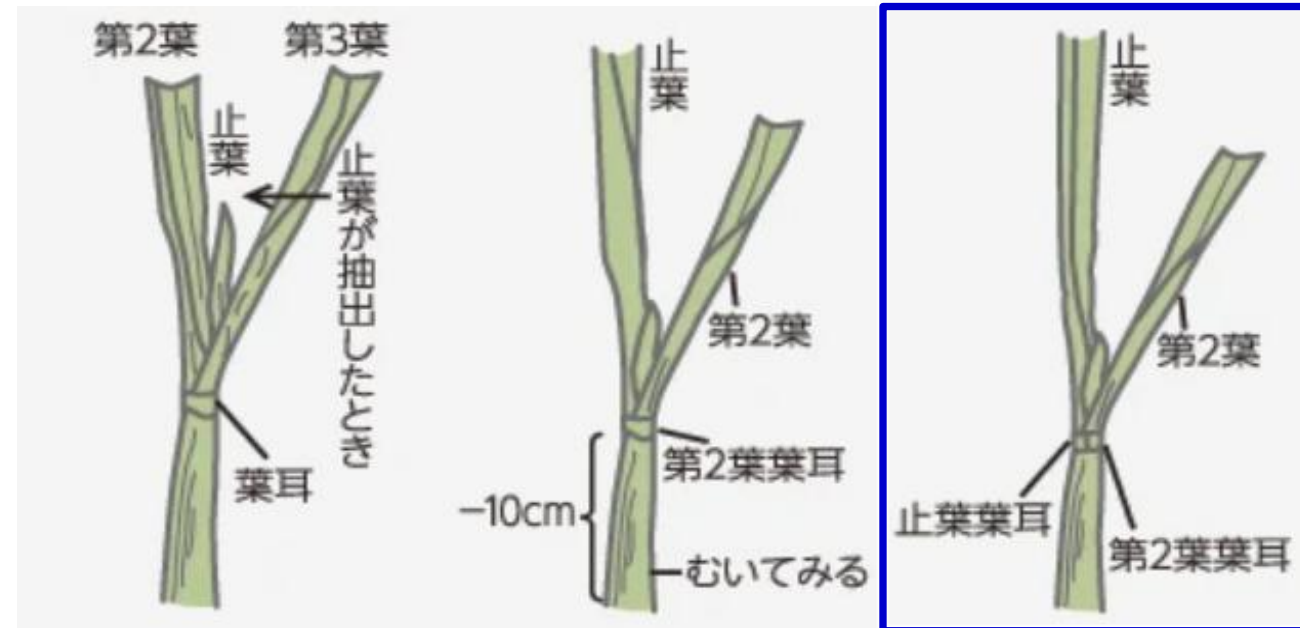


急激な葉色低下に注意!!

出穂期前の「しっかり穂肥」で登熟期間の栄養を確保!!

(3) 止葉の出方で「出穂10日前」=2回目穂肥時期を診断しましょう!!

間もなくコシヒカリの2回目（出穂前10日）の穂肥時期となります。下図：「止葉の出方と葉耳間長」を参考に葉の付け根にある突起＝“葉耳”を観察して、2回目穂肥の散布適期（止葉の葉耳とその下の葉の葉耳が並んだころ…葉耳間長0cm）を判断しましょう!!



水稻の出穂前最後に出る葉が止葉でその下から上位第2葉、第3葉となる…止葉が抽出し始めると「出穂のおよそ18日前」

止葉の抽出が進んだら葉鞘をむいてみる…葉耳間長-10cmで「出穂のおよそ12日前」

止葉の葉耳と第2葉の葉耳が重なったとき…葉耳間長±0cmで「出穂のおよそ10日前」→2回目穂肥の散布適期です!!

※トータル化学窒素成分が3.5kg/10aを超過する場合、有機100%穂肥（みらい有機831等）を施用してください。

(4) 「出穂10日前」の葉色を診断して穂肥施肥量を決定しましょう!!

コシヒカリの登熟期間に高温気象が予想される場合「出穂期の葉色」＝SPAD値が33を下回らないように穂肥施用することが、最も重要な技術対策となります。以下の手順で出穂10日前の葉色を診断し、2回目穂肥の施肥量を決定します。

- 上図(3)止葉の出方と葉耳間長を参考に、2回目穂肥時期を診断します。
- 止葉の葉耳と第2葉の葉耳が重なったとき（出穂10日前）に、SPADで葉色を測定します。
- 測定されたSPAD値を右表の★出穂10日前SPAD測定値にあてはめ、N施肥量と穂肥施肥量を診断します。

*例：出穂10日前のSPAD値が31.0と測定された場合、必要となる穂肥N施肥量は1.521kg/10aとなり、越後の輝き有機50穂肥を施肥する場合、10aあたり施肥量：12.7kgと診断します。

出穂10日前の葉色と穂肥施肥量「診断表」

出穂期 目標 SPAD 値	★出穂 10 日前 SPAD 測定値	2 回目穂肥 N 施肥量 (kg／10a)	越後の輝き有機 50 穂肥 施肥量 (kg／10a)
出穂期の SPAD 目標値を 「33.0」 に設定 すると…	28.0	2.473	20.6
	28.5	2.315	19.3
	29.0	2.156	18.0
	29.5	1.997	16.6
	30.0	1.839	15.3
	30.5	1.680	14.0
	* 31.0	* 1.521	* 12.7
	31.5	1.363	11.4
	32.0	1.204	10.0
	32.5	1.045	8.7
	33.0	0.887	7.4
	33.5 以上	0.728	6.1

★注）県認証特裁米 化学N使用基準量：3.5kg/10a以下となるよう施肥設計してください。

2. 病害対策

葉いもち
病斑



こまめにほ場を巡回して、いもち病・
紋枯病の発生状況を確認してネ!!



(1) いもち病

6/11・16 に近隣地域でいもち病感染好適条件が発表され、当地域の一部でもいもち病の発生が確認されております。葉いもちから穂いもちへ感染拡大する時期となりますので上位葉での発生・病斑を確認したら、ただちに薬剤防除（カスミン液剤）を実施してください。

(2) 紋枯病

高温＋多湿条件下で紋枯病は発生しやすくなります。前年に多発生したほ場や発生しやすい品種では、梅雨明け以降の気温上昇でさらに病状・被害が進展しやすくなります。発病（発病株率：10%以上）が確認されたら、薬剤防除（バリダシン剤）を実施してください。



紋枯病斑

3. 斑点米カメムシ対策

出穂の早い五百万石・ゆきみらい等は、防除適期となっています。適正な水管理で、防除効果を高めましょう!!



警戒! 7/10 新潟県内にカメムシ類の「多発生注意報」が発令!!

① 水田内および水田周辺の雑草管理の徹底!!

発生密度の
抑制・低減

斑点米カメムシ撲滅運動：第4弾!!

② 本田防除薬剤の適期散布

アカスジカスミカメ

平年に比べ
“多”発生!!



ホソハリカメムシ



無人ヘリ防除の除外区域＝「粒剤・豆つぶ剤散布区域」では、品種ごと・ほ場ごとの散布適期：穂揃い期（出穂期の5日後～7日後）に薬剤防除を実施して下さい。

薬剤名	使用量	散布時の水管理
スタークル粒剤	3kg/10a	田面が湿った状態（飽水状態）～深い部分で3cm程度の浅水
スタークル豆つぶ	250g/10a	ほ場全体を3～5cmにしっかり湛水（漏水田等での使用×）

出穂期



40～50% 出穂

散布最適期



出穂期7日後

薬剤散布直後は、
降雨による水田水の
オーバーフローに
注意してネ!

ポイント

薬剤散布時・散布後の作業ポイント

- ① スタークル剤は、降雨により薬剤効果に“ブレ”が生じます。天候が安定している期間に散布して下さい。
- ② 散布後に少量の降雨が予想される場合は、水尻をしっかり止めてヒタヒタ水の浅水状態で散布して下さい。
- ③ 散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は“落水やかけ流しはしない”で下さい。
- ④ 薬剤散布後も、引き続き“イネ科雑草種子が結実しない間隔”での雑草管理を徹底しましょう!

農作業中の「熱中症」には、十分注意してネ!!

～～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～～
次回稲作情報：8月上旬「生育状況、刈り取り適期予想、後期水管理」（予定）

特別号：3 回目穂肥の実施と判断方法

～～ 出穂6日前頃を判断期限とし、3回目の穂肥を実施しましょう! ～～

(1) コシヒカリの葉色が淡いほ場では、下表を参考に出穂期前に窒素成分1～2kg/10aを目安に追加の穂肥を施用してください(出穂期の葉色目安:SPAD値33)。

(2) 全量基肥施肥のほ場でも、葉色が淡い場合は追加の穂肥を施用してください。

(3) 施用効果を高めるために、飽水管理を徹底しましょう。

品質向上のため、もうひと踏ん張り
お願いします!!



【コシヒカリ5割減栽培における追加穂肥の目安】

施肥条件	判断時期と 葉色値の目安	残りのトータル 化学窒素量	使用肥料 例	10aあたり 施用の目安
分 施	出穂期3日前 葉色値31以下	0.5～1.0Nkg	ドローン用尿素43 ※1	出穂期3日前 1.1kg(0.5Nkg)～ 2.3kg(1.0Nkg)
	出穂期6日前 葉色値33以下	0.5Nkg 0Nkg	越後の輝き 有機50穂肥 ※1 みらい有機831 ※2	出穂期3日前 8.3kg(1.0Nkg) 出穂期6～3日前 12.5kg(1.0Nkg)
全 量 基 肥	出穂期の葉色値が 32～33を下回ると 予想されるとき	0.5～1.0Nkg	ドローン用尿素43 ※1	出穂期10日前 1.1kg(0.5Nkg)～ 2.3kg(1.0Nkg)
	出穂期10日前後 葉色値30以下	0Nkg	みらい有機831 ※2	出穂期10～5日前 25kg(2.0Nkg)

※1 トータル化学窒素3.5kg/10a以内で施用してください

※2 他の有機質100%肥料でも代替可能です(例:鶏ちゃんパワー など)

ご案内① 水稻の「生育診断」はJAにお任せください!!

皆さまからのご要望で現地ほ場に出向き、水稻の幼穂長や草丈・茎数・葉色等の生育を診断し、穂肥施用と栽培管理を個別に指導します。

2回目・3回目穂肥の判断に是非ご活用下さい!!

「生育診断チーム」設置・活動期間：7月上旬～7月下旬まで
～ 詳細につきましては、お気軽に最寄りの営農センターへお問い合わせください!!～

ご案内② さんとう地区あぐりセンターの営業について

あぐりセンターの営業は、8月2日(土)～8月17日(日)の休日が
休業となりますのでご注意ください。

生育診断のお問い合わせ先		肥料・農薬・資材のお問い合わせ先	
さんとう北営農センター	☎0258 (74) 3434	あぐりセンターわしま店	☎0258 (74) 3176
さんとう営農センター営農課	☎0258 (42) 4133	あぐりセンターみしま店	☎0258 (42) 2240
こしじ営農センター	☎0258 (92) 5606	あぐりセンターこしじ店	☎0258 (92) 5604